

電熱ヒーターは地球温暖化が懸念される中、環境に優しい熱源として注目されている。同ヒーター技術を50年以上にわたって追求するのが工業用ヒーターメーカーの新日電熱工業（大阪府八尾市、松岡啓二社長）だ。主に四国工場（高知県宿毛市）で各種工業用ヒーターを一貫生産する。

ニクロム線を金属製のシース（保護管）で被ったシースヒーターをアルミニウムで鑄込んだアルミ鑄込ヒーターは、同社が代表製品だ。内製化するため、2000種以上のモデルを保持し年間約400種を生産している。ただアルミ鑄込ヒーターを生産する。生産品目全体の約2割を占め、素材メーカーの生産ラインなどの設備更新や新規受注が堅調で、特注品にも対応している。

新日電熱工業 四国工場

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

（第一部）

3

電気式溶解炉を導入



の製造時に使う従来の灯油式バーナー溶解炉は、同社の製造設備で課題だった。四国第一工場2月に本格稼働した電気式溶解炉は「エネルギー効率が高いのが経過。灯油価格が電気料金以上に上昇する中、エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量は従来比50%減り、エネルギーコストも同40%以上削減の目標値を達成した。また電気式導入時に、作業環境を改善、生産能力増強を二気に解決した」。

▲四国工場に導入した電気式溶解炉でアルミを溶解する

今夏のピーク電力量の検査と一緒に進めている。電気式の導入は生産性向上にもつながり、アルミを溶解する

（火・木曜日に掲載）

エネ使用量・CO₂半減

【事業所概要】▽所在地＝高知県宿毛市平田町戸内字扇3433の14、08800・66・1007▽主要生産品目＝シースヒーター、同用製品、アルミ鑄込ヒーターなど

ミ溶解量は従来の日量300キログラムから約1・8倍に減少。溶解炉周辺の室温は「体感温度で3・5度Cは下がり、夏の暑さが行え、早朝出勤を不要とし解消した」（都築健四国工場長）。順調に砂型に注湯する回数も大幅に増やせるため、受注量に合わせて製造できる。均一に効率良く加熱するためルツボが損傷しにくく、交換頻度の減少も見込まれる。

電気式で作業環境も大幅に改善した。灯油式バーナーから排出するススや臭気がなくなり、熱源